

■芽室町農業振興計画策定検討会議 第2回担い手対策部会

日時：令和元年12月18日（水）10:00～12:00

場所：役場庁舎地下第2・3会議室

【出席者】

浅野副部長、小川部会員、茅野部会員、高野部会員

【欠席者】

山上部会長、相川部会員、竹腰部会員、平林部会員

【事務局】

佐々木補佐、水野主事（農林係）、上本主事（畜産係）、村上係長（農委農地振興係）

■1 開会

佐々木補佐

第1回会議のあと、農協、普及センター、町などから意見を集め、事務局でまとめた資料と本町農業に関する基礎資料の冊子の確認と欠席者等について報告。

■2 部会長挨拶

浅野副部長

限られた時間だが慎重審議し、3回目の会議に繋げていきたい。

■3 議題

浅野副部長

資料1に記載のとおり、検討項目に関しては1～4までの4項目があり、検討項目ごとに現状と課題の整理と施策の方向性までを一括して検討していきたいと思う。

それでは事務局から説明をお願いします。

佐々木補佐

（資料1 「検討項目1 配偶者対策」に基づき説明）

現状について2つ挙げている。特に農業後継者の配偶者不足による将来的な後継者不足の懸念と、農業後継者対策推進委員会で実施する交流会活動や独身女性を対象の事業も参加者の減少が顕著である。

次に課題を2つ挙げており、内容については記載のとおり。

浅野副部長

まず現状について、質問・意見あれば伺いたい。

高野部会員

今後どのくらい離農者が出てくるのか、後継者が現状どのくらい不足しているかの見通しや把握はしているのか。

佐々木補佐

毎年農業経営実態調査を実施しており、様々な理由で毎年5～10件程度離している。

高野部会員

資料を見てきて思ったが、本州の農家と違い、大規模農家が多く、規模拡大したい人は農地が欲しいが、全員が規模拡大志向かというところと違う。高収益野菜の作付を目指す若手農家も多い。農業の多様性をもっと知る必要があり、大規模になったら集約が必要なことや、小さい農家は人を確保したいなど課題は様々。

また、農家の息子たちは自分から外に出向かないと交流ができない。昔、名古屋との交流があったと思うがあの事業の詳細は？

村上係長

芽室町独自ではなく十勝農業委員会連合会で昔実施していた事業。

高野部会員

その事業で芽室町にも配偶者が来たと思う。

以前、テレビで見たが、園芸農家に関するのだが、援農（ボランティア）募集の際に年齢、時間帯問わず募集をすると若い世代も来る。そのようなところで若い世代でコミュニケーションが取れば、配偶者対策にもなると思う。農業者ではない方々が体験したいなどの話はあるのだろうか？

茅野部会員

ある。同級生に農家の娘が多く、空いた時間に家の手伝いをしている話をよく耳にする。その話を実際に聞いて、してみたいという人が多い。自分はまだないが、知り合いの農家の家へ休日に手伝いに行く人もいるし、気になっている人も多い。

高野部会員

担い手対策は、場の提供など、何らかのキッカケが大事だと思う。

茅野部会員

場の提供などのキッカケとなる情報を得られていない。過去に交流会活動が実施されていると記載があるが、直近でそのような事業はいつ開催されていたのか。自分から調べられていないだけかもしれないが、今まであまり聞いたことがない。

村上係長

農業委員会としては、農業後継者の対策の一環としており、農業が体験したいとの部類ではない。農業後継者対策推進委員会の事務局を農業委員会に置いているが、花嫁対策の一環として考えている。内容は、内地から農家に嫁ぎたい女性に来てもらって、独身男性の家で親とも話しながら農作業を体験してもらう。そのなかで、独身男性の方を気に入った際は、次につながるよう、サポートしていく。

高野部会員

昔のお見合いのような、すぐ結婚という取組みだと思う。

知り合いの農家から、婚活パーティーを開催しても人が集まっていないと聞いたが。

浅野副部長

委員会でも審議をしているが、芽室町の男性農業後継者は女性や婚活に対して興味が薄い。女性は多く集まるが、男性の参加率が低い為開催できていない。芽室町の男性農業者は困っていないか求めているかのどちらかである。

小川部会員

今の若い男性は結婚したい気持ちがあまり無いのだろうか。

村上係長

無い人が多いと思う。

小川部会員

スマートフォンの普及など、自由な時間が多く、慣れてしまっている。その意識を変えないとダメだと思う。

村上係長

現在農家戸数約600戸の内の約130戸が独身で、上は54～下は19歳。

浅野副部長

結婚していないので、離農する農家も今後増加すると思う。

清水町で実施している男子図鑑のように、一般男性も含め、幅広く、町外や管外、道外にアピールする必要があると思う。

高野部会員

茅野部会員からもあったが、結婚が前提ではなく、様々な人が交流する場を幅広く多様にチョイス出来ないと思ふ。

小川部会員

まずは知り合うことが大事だと思う。そこから発展すればいいと思う。

高野部会員

結婚前提だと、迎える側も気構えるし、ハードルが高くなる。

浅野副部長

昔の青少年ホールのように、若い世代が集まる場所があると、様々な人が行きやすい。

高野部会員

息子から聞いたが、場所代が安ければ、若手が集まるイベントを開催するのは可能と聞いた。青年部の交流会でも、大きなスクリーンを使用して全員でゲーム大会をするなど、昔では考えられない、今風の交流をしている。

青年部の結婚している人たちにも意見を聞くのはいかがでしょうか。

村上係長

農業委員会から青年部にも一緒に何かできないか打診しているが、あまり乗り気ではない。

高野部会員

忙しいのもあるのかもしれない。情報を出して実施できる人を募ってみたり、農業に拘らず大小問わず様々な団体に声をかけるのもありだと思う。興味を持った人がイベント開催や SNS を活用し情報発信していくのも手だと思う。紙よりも SNS の方が情報は入ってくると思う。

浅野副部長

現状については、部会員から意見があったとおりに思う。現状の取り組み他に、SNS の活用など、前進した取り組みをしなければ反響はないと思う。

また、遊休農地の発生や野菜の作付農家の増加により、これ以上農地が不要な農家も出てくる。

「課題1 多様な農業後継者の確保」に係る意見も多数でたが、課題1についてはいいだろうか。

全員

問題ない。

佐々木補佐

婚活を前面に出すのはイメージが良くないのではと町でも話をしている。新得町等、他の町も方向転換している状況である。

浅野副部長

「課題2 男性・女性農業後継者の配偶者確保対策」に進みたいと思う。

私が知る中では、女性農業後継者は増えてきていると感じる。女性農業者を助けられたり、盛り上げる方法はあるだろうか。

村上係長

現在は男性、女性という差別は無くなってきている。農業後継者推進委員会で押さえている独身女性農業者は現在2人で、男性に比べ積極的な人が多い。また、親元に帰ってくるときに、配偶者を連れてくる方も多い。

民間などでも女性農業者を対象にしたイベント等が無いのが現状である。

高野部会員

女性農業者に対してではなく、女性農業者の配偶者に対する農業研修等があれば、帰る方も迎える方も、気持ちが楽になり、帰りやすいのでは。

浅野副部長

娘が親元に帰るときに、就農に向けた研修があると、町から親にも伝えてほしいということか。

高野部会員

そのような研修があれば、夫婦で研修を受けられるなどの魅力があり、いいと思う。

自分たちの世代では無かったが、今は農家の奥さんもトラクター等を運転している。夫婦で同じ作業が出来れば、仕事が偏ることも少なくなると思う。女性が経営者になるには、そういったバックアップも必要だと思う。知識があればお互いで協力しながらできると思う。女性も男性もとなると夫婦二人でできるというのが必要だと思う。

浅野副部長

芽室町は娘が親元就農したい時は、配偶者を連れて戻る方が多数。男性よりしっかりしている。

高野部会員

親の姿勢も大事だと思う。

村上係長

息子と中々話せていないというのはよく聞く。

浅野副部長

対象者の息子の親にもミーティングの場が必要だと思う。親も巻き込む必要がある。

高野部会員

婚活パーティーも資金を親が出す家庭と、自分で出す家庭があると聞く。親の感覚も違う。

親のモチベーションも大事だと思う。

浅野副部長

婚活パーティーにどのくらい費用が掛かりどのくらい大変なのかを親が知るのも必要だと思う。そのような勉強会があれば発展するかもしれない。息子だけでは上手に行かない。

村上係長

結婚している男性も少ないわけではない。やはり結婚する男性は積極的。

全員

その通りだと思う。

村上係長

昔、結婚している農協青年部の人たちから、結婚していない人たちを誘っても、結婚したくないからと断ったり、外に連れて行ってもまったく喋らないなどということを知った。

高野部会員

話すのが苦手な人が得意な人と一緒だと、相手も話すのが得意な相手と話してしまう。

それなら、間に入りマッチングするのが上手な人に費用を使った方がいいと思う。その方が行っている人も気持ちが良いと思う。

村上係長

自分たちが間に入りマッチング役を担っているがそれでも上手くいかない。キッカケづくりのために話を振るが、話をしない人が多い。

高野部会員

料理とかはどうだろう。

浅野副部長

共同作業みたいで良いと思う。

村上係長

ゲーム等はあるが、料理は実施したことない。

全員

面白いかもしれない。

佐々木補佐

農業小学校の際に若い農家と話したが、農家だから結婚できないということは無いと言っていた。話すのが苦手な人でも、共同作業であれば、必然的に話すし、自発的にやれば頼りになると思われるなどのメリットがあるかもしれないと話していた。

浅野副部長

そういうのがキッカケにもなると思う。

高野部会員

趣味が合うのもいいと思う。

村上係長

今の若い人は農作業が終わってからゲームしていることが多いと聞く。

高野部会員

ゲームが好きなら、ゲームを活用するのも一つだと思う。

浅野副部長

課題2については、今までのイベントをさらにボリュームアップをするなど、違った視点の内容を取り入れるなどで進めていくことで良いだろうか。

小川部会員

構えなくて異様な出会いの場所があればいいと思う。

茅野部会員

農家のお嫁に行くと、自分が農作業できるのかなど、不安も多いと思う。農家によっては、結婚してから、農作業しなくても良いよという農家もいる。実際はそうはならないと思うが、情報が少ないと不安だと思う。

高野部会員

だからこそ親の理解が大事だと思う。個人名を出さず各農家の働き方や生活の仕方の現状を伝えるのも必要だと思う。

浅野副部長

そういった細かい事も含めた情報発信も大事だと思う。

それでは、検討項目2の説明をお願いしたい。

佐々木補佐

(資料1「検討項目2 新規就農対策」に基づき説明)

現状について7つ挙げている。その中でも特に新規就農希望者の取得可能な農地がないことと、後継者に近年、集団よりも個で動く事を好む傾向にあることは、大きな課題。

次に課題について4点を挙げており、内容については記載のとおり。

浅野副部長

まず現状について、質問・意見あれば伺いたい。

高野部会員

農外からの新規就農者はどのくらいいるのか。

佐々木補佐

問い合わせは多くはないが年間1～2件ほどいる。電話での問い合わせが多く、農地の話になったときに、取得できる農地が少ないと話すと、直接会っての相談とならないケースが多い。

高野部会員

芽室では廣田さんが挙げられるか。

浅野副部長

後は、上美生のハーブ園の飛田さん。その他にも委員会にも問い合わせがあったが2件程あったが、1件は更別村の農家の居抜就農し、1件は就農できなかった。

高野部会員

更別は町のバックアップがすごいと聞いた。

浅野副部長

芽室の農家が、良い農地が出てきた際に新規就農者にわざわざ譲ろうとしないものもある。

高野部会員

就農したての後継者の講座をどうするかもある。

浅野副部長

農業研修先の受入先としてはホームステイの話も聞くが、学生の修学旅行生の受入か。

小川部会員

高校生の修学旅行。農業を知るきっかけにはなっている。その中で農業をやってみたい子どもがいれば新規就農につながる。

高野部会員

修学旅行生の受入をしているが、都会から農村に来るのは初めてのことで、食べるものを自分たちで作大変さもあるが、すごい感動して帰っていく。それを地元でも出来ると、なお良い。農業者と農業で交流することで、農業を知ることが出来る。そういう繋がりが後継者や新規就農対策に少しはつながると思う。JAは研修が充実しているイメージがある。

浅野副部長

農協の新人職員は町内の農家に1週間～10日程度研修に行っている。

高野部会員

受け入れ農家が増えれば、十勝の高校生の実習を受け入れする取り組み等ができればいいと思うが、現在の関西方面の旅行生を受け入れするのもままならない状況だと難しいか。

浅野副部長

希望があっても受け皿が無いのが問題。泊まりとなると奥さんの理解も必要。来てもらうには宿泊場所が課題だと思う。農協の研修でも今は宿泊の実施はない。

高野部会員

宿泊場所があれば幅は広がる。新得町のレディースファームはカリキュラムもある。人数は少ないと聞くが、無いよりは全然良い。

課題4の農業子弟に対する支援だが、海外研修等で補助が出るのはいいと思う。

佐々木補佐

農林課ではなく企画財政課で実施している人材育成助成だと思う。

高野部会員

助成を知り、息子達が海外研修をした。小さな組織でも活用している補助は活用しやすいと思う。

浅野副部長

高野部会員は指導農業士の資格を持っているが何か取り組んでみたいこと等はあるのか。

高野部会長

資格を取ったときは、役割が曖昧であったので、社会貢献や実習生を受け入れるなど自分の為という意識があった。今はだれを指導農業士にするか選ぶ立場にあり、選ぶのが大変。誰でもというわけにはいかない。

小川部会員

農業士の制度をあまり理解していない。

浅野副部長

せっかくの資格なのに理解されていないのは勿体ない。PRも必要だと思う。

佐々木補佐

北海道の制度で、地域のリーダーになれる人材を推薦し、北海道が称号を与える。指導農業士には研修の受け入れ等をお願いしている。

高野部会員

自己研鑽なので研修等は全部自分で払わなければならない。

小川部会員

推薦すれば誰でも認定されるのか。農業士になるための研修等はあるのか。

高野部会員

研修はないが、推薦されるには、外の組織で様々の人と交流していたり、自発的に物販をしているなど、自己研鑽や様々の人に農業を伝える活動などを行い、町や振興センター、普及センターと関係を築き自分達で勉強をしている必要があると思う。

佐々木補佐

地域のリーダーなので、営農状況や、経営体の中でどのような役割を担っているか、どのような社会活動をしているか等を記載して推薦する。

高野部会員

推薦する農業者を選んでほしいといわれても難しい。

浅野副部長

なりたい人がなれるものではない。様々な関係機関を経てふさわしい方が認定を受けている。

佐々木補佐

農業改良普及センターでは就農して間もない農家の勉強場所として、アグリカレッジを開催しており、畑での研修の際には指導農業士を活用している。その中でお互いが交流し相互の勉強となっている。

高野部会員

会としては1回研修をしており、それ以外は状況に応じて実施している。その他は各個人の自主的な活動となっている。

浅野副部長

講師団体に変わりはないが、現状活用事例が少ないから町や農業委員会、JAで連携強化は必要だと思う。課題2については連泊で受け入れは難しいと思う。宿泊先を確保し、そこから来てもらうのが良いと思う。

農外の受け入れも今現在農地が無く今の段階で方針を決めるのは難しいが、少しずつ5～10年先を見据えながら取り組みを考える必要がある。

高野部会員

5年後10年後の為に連携体制作っておく必要はある。

佐々木補佐

5年後10年後が経過していきなり連携は取れないと思う。

茅野部会員

宿泊施設の整備は良いと思う。農業だけでなく、スポーツ団体など幅広く誘致できると思う。

高野部会員

調理場もあれば食育もできる。

佐々木補佐

上美生のふるさと交流センターやまなみは、農業研修生の受け入れも可能だが、山村留学の子ども達も入居しており、生活の時間帯が違うなどの理由で敬遠されており、実績が無い。

高野部会員

場所の問題もあると思う。車が無いと移動が出来ない。

小川部会員

宿泊施設あれば、異業種交流もできると思う。

浅野副部長

町で用意してもらえれば幅広く受け入れられると思う。

佐々木補佐

やまなみの設置は都市と農村交流を目的に農業関係の補助を活用しており現状はそれ以外の活用は難しい。

高野部会員

活用できるようになれば情報発信は必要だと思う。

浅野副部長

宿泊施設があれば、企業も交えた多目的な活用ができると思う。

佐々木補佐

雇用労働者の対策としては街中の旧農業国立試験場の宿舍の払い下げを受け、農業以外にも企業に勤める方など、広い視野で短期の方を対象に受け入れられるよう進めている。

浅野副部長

方向性が定まるまでは空マンションなどを活用し、方向性が決まった段階で宿泊施設を造るのも良いと思う。

他に意見はあるだろうか。無ければ検討項目3に移りたい。

佐々木補佐

（資料1「検討項目3 労働力確保対策」に基づき説明）

現状について8つ挙げている。その中でも特に新規就農希望者の取得可能な農地がないことと、畑作農家の冬期間の雇用や畜産農家の雇用者住宅確保が難しい状況、JAの農作業補助員の斡旋と農作業マッチングシステム「daywork」を活用した無料職業紹介事業による人員確保の苦境が続く状況のなか、高い労賃での人員確保で労賃負担が重くなりつつある状況ある。

次に課題について3点を挙げており、内容については記載のとおり。

浅野副部長

まず現状について、質問・意見あれば伺いたい。

小川部会員

人手が欲しい時期はどこの農家も同じで、労働者以上の人出が欲しいとなっても確保が難しい。

高野部会員

先ほどの話に戻るが、どこから来ても受け入れられるよう、宿泊施設の確保は必要だと思う。沖縄等の季節が逆転している地域との相互の受け入れも聞いたことがある。

佐々木補佐

実施をしている地域はある。

高野部会員

daywork も非常にいい。

佐々木補佐

農協では、daywork を活用し、農協に登録するシステムと、派遣会社に登録システムの2パターンで実施している。農協に登録している農家は、全体の1/3程度と聞いている。

高野部会員

知り合いの農家は、労働力が必要な時にすぐ daywork で確保し、個人で対応していると聞いた。

前日までに daywork で確保すれば良いので非常に便利だが、時々、無断欠勤や作業内容が不得意な人もいるが、お互い短時間の必要なタイミングと、仕事をしたいタイミングが合えばすぐマッチングするのでメリットの方が大きい。学生や帰省中の方が利用する話も聞いたことがある。

浅野副部長

若い世代は daywork などに登録し、評判が良く、慣れてくると利用者も増えていくと思う。

また、事務局からも説明のあったとおり、農協の無料の支援と daywork の2つのパターンがあるが、両方拡大していても、人手不足や栽培作物の他目化もあり適材の人材を確保するのが難しいのも現状としてある。芽室町だけではなく、人がいないなら、国が海外から雇用を確保するのも必要だともう。

高野部会員

近隣の農家にも10日程度外国人が来ている。

村上係長

その農家で仕事が終われば他のところにも働きに行くのか。

高野部会員

恐らく働きに行くと思う。就労ビザで来ていれば3年程度滞在できたはず。

外国人を取り入れる取り組みは芽室町でできるのか。

佐々木補佐

町が直接窓口にはならないと思う。

浅野副部長

お金が発生するとできないのでは。

村上係長

窓口になるのは農協の方が良いのではないかと。

佐々木補佐

農協と直接話をしたわけではないが、どのように連携するかという話になると、窓口になるのは農協や農業者の団体が窓口になり、宿泊場所など、支障となる部分を町が整備する形になると思う。

浅野副部長

そういうバックアップは必要だと思う。

高野部会員

大きい農家は自分たちで外国に行き確保できるが小さい農家を実施するとなるとハードルが高いと思う。

浅野副部長

農家も季節的な雇用は出来るが、冬期間の雇用が難しく、契約をできないと労働者側も不安になると思う。通年で雇用するのであれば、収穫物の加工を冬期間に行うシステムがなければ難しいと思う。

佐々木補佐

農家でも畜産農家は通年を希望するが、畑作農家は夏場の短期が多くなってしまう。畑作農家の通年雇用となると他産業と連携しなければ難しい。

商工観光課とも話しをしていると、企業側も通年度雇用したいので、マッチングが難しい。

浅野副部長

冬期間の雇用の為に、自分で加工場などを造るとなると、費用が大きく、一人の力では難しい。

高野部会員

テレビで見たのだが、65歳以上の退職した男性方が農家の畑にボランティアとして農家に働きに行っていた。高齢者でもできる仕事はあると思う。

浅野副部長

芽室町でもシルバー人材派遣があり、退職した農協職員や離農した農家が登録しており、高齢者でも知識があって人気であり、活用しようにもなかなか順番が回ってこない。

高野部会員

そのようなものに登録している方は長い間できるなどの自身がある方だと思う。

農家を選択することだが、それなら、dayworkのように仕事内容は時間帯を細部まで分ければ人は来るのではないかな。

浅野副部長

若い人は問題ないが、年配者には daywork のように簡単に活用できるシステムは必要だと思う。

高野部会員

今の高齢者もスマートフォンやパソコンを活用できる人は多い。町やJAのホームページにリンクし、利用者が自分で活用できればいいと思う。

佐々木補佐

以前やまなみの利活用の件で酪農家と意見交換した時の話だが、労働者の確保が大変でやまなみのような住宅を利活用したいけれども、来てくれる労働者がいないので様々な方に意見をいただき際に、自分たちがどんな場所でどんな仕事をしているか等の情報発信が出来ていなく、映像などを作成しPRしていくと人は集まると言われたが、中々そこまで手が回らず、出来ていないと聞いた。

高野部会員

知り合いに言われたのだが、町外の農家で時期によっては仕事がない方もいるので、町を超えて交流し、農家を活用してはという話があり、実際に実施している。近い町同士ならできると思う。

茅野部会員

先ほどの65歳以上のボランティアだが、芽室町の介護養護ポイントで使えないだろうか。

全員

いい案だと思う。

小川部会員

外国人も含め若くて家にいて何もしていない人はいる。そのような人がコミュニケーションをとりたいと感じ外に出てきて係れば、お互い良いと思う。

高野部会員

多種多様な働き方で間口を広げれば働きたい人も増えると思う。

浅野副部長

雇用のPRや65歳以上のシニアの方を活用すればポイントが付くなどの特典が付くというのはアイデアとしては面白いと思う。

小川部会員

農福連携も人によって特性があると思うので、活用するほうもその人の特性を理解する必要がある。真面目な人が多いので、農家の方がどのような作業ができるのか把握し、見極めることが重要だと思う。

浅野副部長

実際に農協でも農福連携を実施しているはず。

佐々木補佐

実施している。今回町とJAでセッティングしたのが南瓜とゆり根。南瓜は先日反省会をしたが、双方ともに良かったという意見は出たが、賃金の面で最低賃金の半分程度などの課題もでた。就労側も今回は仕方ないと割り切ってはいたが、可能な作業内容を農業者側に伝えていき、実施しやすいように段取りが出来るよう試行錯誤していく。

浅野副部長

農福連携は障がい者側は働き場所を確保でき、農業者は働き手を確保出来るので、上手にマッチングできればいいのだろうが、通年となると季節的な部分もあり難しいとも感じる。

佐々木補佐

特性に合わせた形で実施できればかなりの戦力にはなと思うが、明日からいきなりというのは難しいと思う。

浅野副部長

農福連携とは単純な雇用では無いので活用側がどういったシステムかを知る必要がある。

高野部会員

興味のある方や理解のある方が受け入れる形じゃないとダメだと思う。講習会等に参加した方たちで実施していくのも一つの方法。誰でもいいというのは危険だと思う。

浅野副部長

農業委員会でも勉強会があった。やはり理解のある方が実施していた。今後農福連携も必要になってくると思う。

検討項目3については終了していいか。良ければ課題4に移りたいと思う。

佐々木補佐

(資料1「検討項目4 農地の移動・集積」に基づき説明)

現状について10点挙げている。特に農地の担い手への集積は、100%に近い限界値であり、後継者の充足率が高いため、離農者が少なく、農地の移動も少ないことから、新規就農者への農地斡旋が出来ていません。

次に課題について3点を挙げており、内容については記載のとおり。

浅野副部長

まず現状について、質問・意見あれば伺いたい。

高野部会員

中間管理事業の活用が無いというのはどういうことなのか。

村上係長

中間管理機構である北海道農業公社が実施している事業。離農して農地の受け手がいない際に中間管理機構が間に入り、受け手を探す事業で芽室町の活用事例は少ない。全体的に受け手があるので活用が少ない。

浅野副部長

農業委員会が事務を執り行っている。条件の悪い余った農地の面倒を見てくれるといいが、現状は優良農地ばかり扱っている。

小川部会員

相対取引とは？

村上係長

農地法3条の取引。斡旋と3条の2パターンがある。斡旋は地域で広く公募する方法。3条（相対）は、取引先が決まっている取引。

小川部会員

金額が高いというのはどういうことか。欲しい人が複数いれば上手に分配すればいいのでは。

村上係長

それだと斡旋になってしまう。斡旋は農業委員会をとおり価格が高騰しないようにする。売り手が価格を上げたい場合は、3条（相対）で実施してしまう。資金力のある農家を買ってしまう。

浅野副部長

買う方は安く買いたいけど売りたい人は高く売りたい。条件が良く高く売りたい意向の方は3条（相対）で取引ししてもう。斡旋の場合は農業委員会が間に入り、その土地の評価額を出す。その中でエントリーしてきた農家で決める。

高野部会員

後はその地域の仲の良さもあると思う。小さい農家がいれば少し譲ろうとなる。

浅野副部長

斡旋をしていく中で、面積の聞き取り調査をし、まずは面積の少ない農家へ集積をと考える。その後は地続きの農家となっていく。

高野部会員

農地法は地域を守ることまで考えているのか。

村上係長

地域までは考えていない。あくまで農地を守る法律。

高野部会員

なるべく平等に農地が行き渡るようには考えているのか。

村上係長

平等にという記載は無いが、偏りが起きないようにしている。

浅野副部長

手間のかかる野菜の作付がもっと増えると農地がいない農家も出てくる。そうなると均等の農地も行き渡ると思うがいずれ遊休農地も出てきてしまう。

方向性に記載があるが、遊休農地の発生防止等、農地を守るために農地パトロールを行っている。

高野部会員

農地法は山林は関係ないのか。

浅野副部長

農地のみ。

佐々木補佐

山林の場合は森林法がある。

高野部会員

山林などが海外の方に売買される事例もあるが、土地を守るものは国の法律のみで、町の条例は無いのか。

佐々木補佐

森林法は伐採等の規制がかかっており、無断で伐採は出来ないが、売買までは規制していない。

高野部会員

民地でも規制のかかっている山林はあるのか。

佐々木補佐

ある。災害等から農地を守るために規制がかかっている山林もある。

浅野副部長

検討項目4について他に意見はあるか。
なければ議案の4その他に移る。

■4 その他

(1) アンケート調査について

佐々木補佐

アンケート調査について、町民を対象にやるべきか内部で議論したが、本会議体は各分野から代表者が出てきていただいているので、実施しない予定。

■5 連絡事項

(1) 次回部会開催予定について
令和2年2月（予定）

佐々木補佐

今回同様、事前に部会長及び副部長と日程を調整し、案内する。それで進めていいか。

部会員

了承。

浅野副部長

欠席者には意見聴取するのか。

佐々木補佐

第1回の全体会議で説明したとおり、意見聴取する予定

■6 閉会

以上、12:00 終了。